

平成25年度長崎大学がんプロ養成基盤推進プラン在宅・地域医療実習

実習生：小池 玄文

実習先：長崎宝在宅医療クリニック

実習期間：平成26年7月14日（月）～7月18日（金）

実習生感想：

在宅・地域医療実習を終えて

長崎大学がんプロの在宅・地域医療実習を通して、長崎市宝町にある長崎宝在宅医療クリニックで1週間の実習をさせていただきました。

長崎宝在宅医療クリニックは外来を行わず、往診専門のクリニックです。院長の松尾先生の他に2人の先生がおられ、約130人の患者さんを診られています。主に車で、自宅や有料老人ホーム、小規模多機能ホームなどに往診に行きます。私の実習中は1日平均30人くらいの往診をしていたと思います。

実習は朝の8時30分の朝のカンファから始まり、先生と一緒に夜の9時頃まで往診をします。院長先生の他の先生は今年の1月頃からこられ、それまでは夜の10時や11時まで往診をしていたとのことでした。患者さんは癌のターミナルの人もいますが、COPDや慢性心不全などの慢性疾患のかたも多かったです。自分のところにきて、癌の方は平均60日くらいでお亡くなりになると言われていました。また、長崎ならではの自宅の近くまで車では行けず、途中からは坂をかなり歩いて往診することもありました。往診の際には白衣は着用せず、これは特に担癌患者さんのご家族に配慮してとのことでした。実際に往診に行くと、患者さんは先生方をすごく信頼しており、とても求められてる感じました。

実際の実習は往診して、必要があれば点滴や抗生剤、利尿剤など使うこともあります。退院前カンファや、自宅でのPICC(peripheral inserted central catheter)、鼠径部からのCV挿入も見せていただきました。1度朝の6時に亡くなられた患者様の看取りを一緒にさせていただきました。

老老介護、体の不自由な一人暮らしのかたも多く、医者その他、訪問看護師や介護師、SWなど多職種が連携していると感じました。先生方の連絡用の携帯にはひっきりなしに、連絡が入っていました。また、私は大学病院以外では働いたことがなく、病院以外のことはあまり知りませんでした。印象に残ったのは、私たちがよく病院内で「患者さんの経済的に

厳しい」などと言っても実際には想像もつかないのですが、実際の往診の際にすくなからず、そのような家もあるということです。

私も希に患者さんを在宅で紹介することもあります。実際にどのように行われているのか知りませんでした。私は放射線科の医師で、専門は画像診断ですので、これから先、在宅医療に直接関わることは少ないかもしれません。ただ、これから先、ますます老年社会になり、在宅医療は医療のより重要な部分を占めることになると思います。在宅医療を実際に見、行われている先生方と接し、話す機会を得られ、とても良い経験になりました。ありがとうございました。

【朝のカンファ】



【往診の途中 長崎港】



【往診の途中 坂の上から】



【往診用のバックを担がせてもらう】



[実習後オリエンテーションにて]

